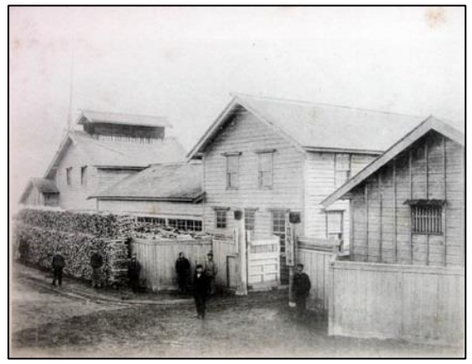
旧開拓使別海缶詰所（現 別海漁協倉庫）《別海町》

「開拓使別海罐詰所開所式ノ景」
【北海道大学附属図書館蔵】

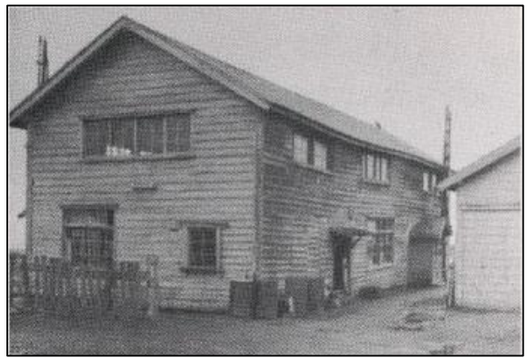


「別海藤野罐詰所外影」
（『藤野缶詰所事蹟一覧』より引用）
【北海道立図書館蔵】

明治十一年六月に開拓使別海缶詰所が建築され、七月の開業とともにマスの缶詰の製造を開始しました。九月に秋鮭の漁獲が始まると鮭缶詰の製造を開始しています。缶詰所の近くには「生徒舎」と呼ばれる建物があり、函館や東京などから来た生徒がここで缶詰製造技術を学び、後の根室、千島の缶詰製造の発展を支えました。

別海缶詰所は、開拓使が廃止された後、北海道に三県（札幌県、函館県、根室県）が設置され、農商務省の管轄に移ります。明治十六年に北海道事業管理局が設置されたことで管轄が北海道事業管理局根室農工事務所に移されます。明治十九年に三県が廃止されて北海道庁が設置。各地にあった缶詰所は民間に払い下げられました。別海缶詰所は明治二十年に藤野辰次郎氏に払い下げられています。

現在の別海缶詰所跡
（別海漁協倉庫）



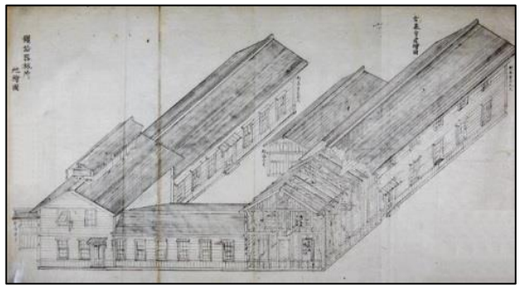
昭和30年代の別海中学校校舎
（『風雪百二十五年 本別海』より引用）

◆所在地◆
旧開拓使別海缶詰所
（現 別海漁協倉庫）
【住所】 野付郡別海町本別海1-93
・別海町郷土資料館から車で約20分

※ 倉庫内部の一般公開はしていません。
※ 別海町郷土資料館（別海町別海宮舞町30）に旧開拓使別海缶詰所に関する資料展示があります。

日清戦争が始まった明治二十七年頃から、海軍や陸軍などから缶詰の注文があり、兵士達による口コミで缶詰の知名度が上がり需要が一気に上がったものの、鮭鱒の不漁や製造の中心が千島方面に移ったことなどを背景に昭和九年頃、藤野別海缶詰所は廃止されました。

戦後制定された学校教育法で各地に必ず中学校を作らなければならないとされたため、この缶詰所は中学校の校舎として利用されることとなりました。



「出来方建絵図」（明治11年4月）
【北海道立文書館蔵】

缶詰所は「コの字形」で二階建て。一階には「事務所」「物置」「缶製造所」「缶詰仕上所」などがあり、二階は主に製造した缶を貯蔵するために使用されていました。

その後、別海漁協の倉庫として利用されることとなり、現在に至っています。

現在、残っている別海漁協倉庫でも明治初期におけるアメリカからの洋風小屋組の導入過程を確認することが出来るため、建築的にも価値のある建物として評価を受けています。

また、別海町では平成二十五年に旧開拓使別海缶詰所（現別海漁協倉庫）を別海町歴史文化遺産に登録しています。

『鑵詰類集 明治十年一月～六月』の中の「北海道産物根室鮭ノ記」には、根室国西別産の鮭を第一等とすることや西別産の鮭の形は頭が小さく肉が太く身の色が紅で最高に美味しいと記載があり、西別産の優れた鮭を缶詰にすれば、外国の缶詰にも負けない缶詰を作ることができ、海外への輸出も出来ると考えていたことが窺えます。

別海缶詰所製鮭罐詰ラベル案（明治11年）
【北海道立文書館蔵】

開拓使時代の別海缶詰所のラベルは残っていませんが、左上にあるような形のものだったのではないかとされています。このラベルは当時貨幣を印刷していた造幣局が印刷したもので、非常にきれいに印刷されています。左下のラベルは開拓使が廃止された後のものです。両方とも食べ方に関するレシピが英語でも表記されており、当初から輸出を考えていたことが分かります。

別海缶詰所製鮭罐詰ラベル（明治16年頃？）
【北海道立文書館蔵】